

# NAVIGATION

進路指導部便り

第 8 号

平成30年11月27日

71 回生センター試験まであと 53 日！

夢野台高等学校  
進路指導部

## センター試験 に向けて

現 3 年生が受験する平成 31 年度センター試験への準備も、仕上げの時期が近づいてきました。11 月の第三回駿台・ベネッセ共催マーク模試の結果を振り返って、強化するポイントを把握し、焦らず、強い気持ちを持って、学習に取り組んでいきましょう。これから、河合塾や駿台などのセンタープレテストを受ける人もいます。「最後の腕試し」的な要素もありますが、得点や順位に一喜一憂することなく、冷静に結果を分析して、追い込みの時期に取り組むべき内容は何かを知る材料として、うまく活用してください。本校でも、来年 1 月 4 日と 5 日に「センター試験直前模試」（通称そっくり模試）を実施します（河合塾のテスト教材を使用。詳細については後日連絡）。これは、センター試験を間近に控えた 3 年生が、文字通りの直前の模試を、本番とほぼ同じ時間帯で受験することで、少しでもセンター試験の「時間」の感覚に慣れてもらうこと、直前の学力を測って、最後の約 2 週間の学習の目標・内容を明確にしてもらうことが目的です。

また、これからは、体調管理もより重要性を持ちます。適度な睡眠と栄養はいいコンディションを保つために大切です。規則正しい生活を続け、生活リズムを崩さないことが重要です。そして、直前期に学力がグンと伸びるのが、現役生の特徴です。最後の最後まで諦めない強い気持ちを持って、1 点でも多く点を取ろうとあがき続けることも大事です。受験は、客観的に物事をみることができる判断力と強い気持ち～冷静な頭と熱い心～を持つ者が成功するものです。71 回生の今後のますますの健闘を期待しています。

**P D C A サイクルの確立** 11 月 13 日の 1 年生の総合学習の時間に、ノルティの手帳の記入について、説明が行われました。中間考査の振り返り（C h e c k）から、学習の具体的な目標をたて、それに向かって学習の改善点を考え（A c t i o n）、計画を立て（P l a n）、実行していく（D o）。計画がうまくいっているかどうか点検し（C）、改善点を考え（A）、新たな計画を立てて（P）、実行していく（D）というテストの振り返り（点検＝C）から始まる P D C A サイクルの確立を、手帳への記入を通じて行おうという趣旨の説明会でした。P D C A サイクルの確立は、効率のよい学習につながります。その際、テストの振り返りは重要な意味を持ちます。まずは、12 月 6 日から始まる期末考査に向けて、中間考査の反省点を生かした計画を立て、しっかり取り組んでみませんか。

そして、10 月末に全国模試がありました。その結果も、もう一度しっかり振り返ってみて、自分の学力は全国の中でどのあたりの位置にいるのか（G T Z＝学力到達ゾーンで判断しましょう）、自分の進路目標達成のために、どれだけ伸ばしていく必要があるのか、そして、まずはどのような学力を伸ばしていく必要があるのかを分析し、そのための学習面での改善

すべきことを考え、具体的な計画を立てて、実行し、次の全国模試（1・2年生は1月中旬）でその成果を点検し、新たな改善点・計画・実行へとつなげていきましょう。2年生は、2月15日に外部会場で、河合塾のセンター対応のマーク模試を受験します。1年生も今年から同様の日程で、河合塾の新テスト（大学入試共通テスト）対応の模試があります。これらの模試にも積極的に取り組んでいきましょう。

2月15日のセンターテスト・共通テスト対応の模試（詳細は後日連絡）

2年生は、全員受験、1年生は希望者受験です。1年生の申込は本日（11月27日）までとなっています。積極的に、模試に挑戦することを期待しています。

### 大学入試改革 にむけて

1年生が大学入試を受ける時から、大きく大学入試が変わること、具体的には次の3つのポイントがあることは知っていると思います。

- ①センターテストが共通テストに代わり、国語と数学で、一部記述式の問題が出題される他、マーク式の問題でも今まで以上に思考力や判断力を問う問題が出題されること。
- ②英検やGTECなど民間の英語資格検定試験が活用されること。
- ③e-portfolioなどを活用して、主体的・多角的評価が取り入れられること。このことを反映し国公立大学でも推薦入試やAO入試（呼び方は変わります）の比率が増えること。

では、このような改革は現在の1年生以降の受験生だけに関係するのでしょうか。現役指向の高まりから、私立大学の競争倍率が上昇してきているという間接的な影響はすでに出てきていますが、それだけではなく、入試改革の方向性は現行の入試にも反映されてきています。現行の入試問題でも、知識・技能だけではなく、思考力を問うような出題が増加してきていますし、国公立大学における推薦入試・AO入試の比率は高まってきています。顕著なのは、英語の民間資格検定試験の活用をする大学が増加していることです。その活用の仕方は、推薦入試など一部の入試方式の出願資格にする大学、一定の資格があれば加点する大学、一定の資格があれば、センターテストや独自試験の英語の点を一定の点がとれたとみなす大学（極端な例では、英検準1級やそれに準ずる資格を取得しているとセンターテストの英語を満点とみなす大学もあります）など、様々ですが、確実に活用する大学は増えてきています。一度、自分の志望する大学がどのような対応をしているか調べてみましょう。英語の資格検定試験に積極的にチャレンジすることも、自分の進路希望実現の道を広げていくことにつながる可能性も十分にあります。また、推薦入試やAO入試での面接では、高校時代の経験を具体的に語り、そこから得られたことを主張できることも大切です。1年生だけでなく、2年生も、購入した手帳を積極的に活用して、活動の記録や振り返りの記録を残していくことは重要になると思います。新しい入試で求められる力は、今後の社会で必要とされていく力です。学年を問わず、積極的に、新しい力を磨いていくよう頑張りましょう。

### 進路指導部からの連絡

進路指導室東側は閲覧室になっています。原則として、平日の昼休みと放課後16時50分まで解放しています。中には、大学入試過去問題集（赤本、これは貸し出しも行っています）や進路関係の資料が置かれています。利用する場合は、東側の入口を使用してください。

また、進路指導室前の机に置かれているパンフなどは、全学年とも持ち帰り自由です。同志社大学や立命館大学などの入試要項も置いています。必要な人は利用してください。